

特色ある学校

戸工版デュアルシステムの取組 ～地域と密着した専門教育による人材育成～

福岡県立戸畑工業高等学校長 松枝 隆生

1. はじめに

本校は、昭和14年に福岡県戸畑市立機械工業学校として設立されて以来、建築科、電気科を増設し、昭和46年には県下で初めて情報技術科を設置した。今年で創立77周年を迎え、1万4千有余名の卒業生を輩出している専門高校である。

平成27年7月5日、第39回ユネスコ世界遺産委員会において、幕末から明治時代にかけて日本の近代化に貢献した産業遺産群、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界文化遺産に登録決定された官営八幡製鐵所関連施設がある北九州地区に本校は立地している。

平成19年度に福岡県内で最も多くの自動車産業が集積する地域において、工業高校と地域産業界、行政等が連携し、生徒に地域産業界の先端技術に触れさせ、今まで以上に実践的なものづくり技能を身に付けた優秀な人材を育成できるように、人材教育環境の充実を図ることを目的とした「福岡県自動車関連産業人材育成事業」が福岡県の施策として策定された。

同時期に本校は、マイスター（高度熟練技能者）育成校として1年次は機械・電気系120名、建築系40名で募集を行い、2年次から機械科（機械技術コース・自動車技術コース）、電気科（電気技術コース・電力管理コース）、情報技術科（通信技術コース・ロボット技術コース）、建築科（建築技術コース・建築デザインコース）の4学科

8コースに分かれる得意技コース制を導入した。校訓を「誠実・創造・努力」、教育目標を「志高く、自律心と思いやりの心を持った、心身ともにたくましい、社会に貢献できる『工業人』の育成」と定め、教育活動全体をとおり計画的かつ組織的な技能・技術教育を行い、卒業生は、約8割程度が地域企業等で活躍している。

2. 企業実習について

短期間の企業実習のことを高校では「インターンシップ」と呼んで取り組んでいるが、近年は、小学校でも「仕事体験」や「職場訪問」といった呼び名で実施されるようになった。どれも同じ就業体験であるが、児童生徒の発達段階や地域の実状により目的や期待できる成果は異なる。

最近では、大学等の高等教育を修了した学生を含め、若者の早期離職率が高いことや数十万人ともいわれるフリーターやニートの増加が社会問題となっている。

学校から社会への円滑な移行を目指し、キャリア教育の重要性が声高に叫ばれる中、就業体験である企業実習は、その課題解決に向けて大きな役割を担っている。

短期間の企業実習は、その成果を「社会の厳しさを感じた。会社の仕事に触れた。」という体験感で終わりがちである。しかし、長期間企業実習を行うことで生徒自身が自主的・主体的に「振り返り」の活動を行うことができる。

3. 研究指定校としての取組

近隣には本校をはじめ県立工業高校3校、私立の工業課程をもつ高校が2校あり、多くの鉄鋼関連企業ならびに自動車関連企業に従事する技能者の育成を行っている。しかし、産業構造や就業構造がめまぐるしく変化し、社会のグローバル化による生産拠点の海外移転で国内製造業の占有化低下や生産ラインの外部委託が増加する中、企業が求める人材も変化してきた。また、少子化や情報化の進展により地域社会の求める教育内容も多様化し、大学等進学率上昇による高校の普通科志向が高まってきた。

本校に入学してくる生徒の中には本校への志望動機が明確ではないため、就職後の企業とのミスマッチや早期離職等の問題も生じ、キャリア学習の不十分さが見えてきた。

そのような中、平成16年度より3か年、文部科学省の「日本版デュアルシステム」推進校として研究指定を受けることとなった。

指定を受けるに当たり本校では目的を「工業高校として、技能・技術教育にこれまでに行ってきた職業生活に必要な教育を学校だけで行うのではなく、教室を企業に移して実際の・実践的な職業知識と技術・技能を養う教育・訓練を、企業がもつ高度な教育力を効果的に活用することで生徒の職業的資質・能力を伸長させ、社会や地域に貢献できる『工業人』を育成する。」とした。

運営委員は、福岡県教育庁教育振興部高校教育課や福岡県商工部新産業・技術振興課等の県の行政関係者、北九州商工会議所や北九州市産業学術振興局等の市の行政関係者、受け入れ先からは企業の人事担当関係者そして九州職業能力開発大学校の教育機関で構成した。

実際に生徒が実習を始めた2年目は、2年生の希望者51名を6月末からの3週間と12月の2週間に、のべ32社に派遣した。3年目は、さらに3年生で希望する生徒18名を3か月間毎

週火曜日に派遣し、長期間企業実習の課題を整理してきた。

4. 戸工版デュアルシステムへの進化

平成19年度からは内容を一新し、「戸工版デュアルシステム」として取り組んでいる。

○目的

・職業の現場における実際的な知識や技術・技能に触れることで、学校における学習と就職先の関係について生徒の理解を促進し、学習意欲の喚起を図る。

・生徒が自己の進路設計や将来設計について考える機会となり、主体的な進路選択能力や進路意識の育成を促進する。

○実施時期

第1学年 夏季休業中の1週間

第2学年 夏季休業中の2週間、または12月上旬の2週間

第3学年 12月上旬の2週間

○対象生徒

1, 2年生の全員と3年生の就職内定者の希望者。なお、12月上旬に参加した生徒は、期間中の授業補充として1月の放課後に補習を行う。

○担当者

全教職員が、ひとり平均2～3社を担当し、実施依頼・事前打ち合わせを実施1か月前までに行い、実施初日・中間日・最終日には受入企業を訪問するなど、企業との信頼関係を構築した。



○運営

運営委員は、企業の経営者または人事担当者等5名、学校側から、管理職、進路部や各専門学科課長ならびにPTA会長の8名、合計13名で構成した。

毎年、「デュアルシステム実施報告書」を作成し、受入企業や中学校等の教育機関に配布して、本校の取組を理解していただいている。

○1年生への指導

「他校は2年生でインターンシップを実施しており、1年生は時期尚早ではないか。」と企業からの声があった。しかし、本校では1年次に体験するからこそ、2年次の体験に生き、真の意味で経験として生徒に積み重なると考え、1年生から実施している。

1年生のデュアルシステムは7月に実施するため、『工業人』としての意識や安全に対する意識など、体験への心構えやスキルが備わっていない。そこで、入学して間もない4月の集団宿泊研修時に、研修プログラムの一つとしてデュアルシステムの意義や目的、身に付く力などの指導を行っている。

○保護者への説明

デュアルシステム期間中、特に夏季休業中は、自己の体調管理が大切となる。食事や睡眠を毎日十分にとることは、意欲の維持や事故防止からも欠かせないので保護者の協力が必要である。そのため、例年4月下旬に実施される



モータ製造会社での体験

PTA総会の後に、保護者を対象とした説明会を実施している。保護者には実施期間が長期間であるため、心配や不安、疑問が生まれてくるが、それを取り除くとともに、子どもへの支援を学校と連携・協力して行っていたりできるよう丁寧な説明を心がけている。

PTAの理解と協力により、キャリア教育の充実・発展に顕著な功績を挙げたとして、平成24年度の「キャリア教育優良PTA団体文部科学大臣表彰」へとつながった。

○安全教育

企業が生徒の受入に当たり、最も注意するのが安全対策である。企業アンケートにも「安全第一」や「安全作業」の文字が見られる。企業との打ち合わせの席でもこの言葉はよく聞かれる。安全教育は、『工業人』の育成には大切なものであり色々な場面で行っている。例えば、実習の授業前点呼で生徒がお互いに指差呼称を行っている。また、実習棟を「実習工場」と呼び、「安全第一」の看板を様々な場所に掲示し、意識付けを行っている。特に「挨拶の励行」や「5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）+2S（省エネ・safety）の徹底」は本校重点目標の一つとしても取り組んでいる。

平成23年度から校内の安全教育の充実と、生徒の安全に対する意識をさらに高めるため、企業より講師を招いて安全教育を行っている。実際に現場で起こった事例等を交えた具体的な話により生徒は、安全を守るために、企業が多くの努力を積み重ねていることを知る機会となっている。

○報告会

報告会は、全校生徒の前で、夏季休業中に実施した分は9月に発表会を行い、12月に実施した分は1月に発表会を行っている。このことは、同学年ならびに後輩との情報共有につながる。また、保護者にも案内し、一緒になって体験談を聞き企業情報を共有している。

実習をした生徒はすべて「デュアルノート」を作成する。この「デュアルノート」で、実習終了後、生徒が「何を経験し」「何を得ることができたか」を確認することができる。また、企業担当者からの意見も記入されており、実習全般を振り返ることができる貴重な資料である。

○効果

1年生の早い時期から職場を経験することで、就業への覚悟や目上の方々とのコミュニケーションのとり方や様々な事を学ぶことができた。そして、上級生となり、専門の学習が進んだ段階では、将来の仕事選びの方向性や適性などを考えながら実習を受けている。また、この実習を受けて、保護者と「将来のこと」「働くこと」について多くの会話をする機会が増え、保護者とともに進路選択ができていると考える。

5. 受入企業への就職

昨年度の本校への求人のうち、デュアルシステム受入企業からの求人は全体の15.5%程度である。その企業へは、95.8%という内定率となっている。就職希望者の29.8%の生徒がデュアルシステム受入企業へ就職している。

現在までデュアルシステムで企業実習をし、その企業に就職した生徒は41名である。

The image shows a handwritten 'Dual Note' (デュアルノート) with a self-evaluation scale. The scale is a 5-point Likert scale ranging from '努力不足' (Insufficient effort) to '十分努力' (Sufficient effort). The scale is divided into five columns labeled 1, 2, 3, 4, and 5. The handwritten text describes various activities and reflections, such as '教育・訓練に積極的に取り組む' (Actively engage in education/training), '職場のルールやマナーを厳守する' (Strictly follow workplace rules and manners), and '安全衛生に十分留意する' (Pay full attention to safety and health). The scale is used to evaluate the student's performance in these areas.

デュアルノート

6. 課題

今後の課題として、①生徒の通勤に係る交通費が自己負担であるため、遠方の企業実習を受けにくい。②夏季休業中に実施することで部活動の日程調整が必要になる。③生徒の希望する職種数と企業の受入数が合わない。そのため、さらに多くの受入企業の開拓が必要である。④教員の担当企業数が増え、対応に必要な時間が多くなる等が挙げられる。

7. おわりに

現在、福岡県立学校の中で、デュアルシステムを実施しているのは本校のみである。

本校では地域や生徒の実態に合わせて実施形態を工夫、進化させてきた。この地域に期待され、協同して未来を担う人材教育システムを今後、引き続き研究・検証を重ね推進していくことで、さらに地域に信頼される学校を目指している。

高等学校を卒業して就職する生徒の5割程度が3年以内に早期離職するといわれている時代、本校の卒業生がすぐに離職するというケースは少ない。それは、入学以来「就職」「安全」「ものづくり」を学び、加えて本取組で、働くことの意義やコミュニケーションの取り方等について自ら学び取っているからだと考える。

本校が目指す『工業人』は地元企業とともに行う人材育成の結果である。

今後も、「戸工版デュアルシステム」を本校の柱として、企業や地域社会のために貢献していきたいと考えている。